

## 特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査結果について（速報版）

**1 調査の目的及び内容****1. 調査の目的**

全国の特別支援学校に在籍している盲ろう幼児児童生徒の在籍数、障害の状態、コミュニケーション方法、学習形態等の実態を明らかにするとともに、担当者の研修に対する要望や課題を把握し、支援体制検討の基礎資料とする。

**2. 調査内容****(1) 調査対象**

全国の特別支援学校 1,025 校（分校、分教室については、本校で集約を依頼）  
悉皆調査

**(2) 調査期間**

平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

**(3) 調査方法**

郵送による質問紙調査（平成 29 年 5 月 1 日現在で回答）。

**(4) 調査項目**

調査票 1：全校対象

- ・対象とする障害種
- ・盲ろう幼児児童生徒在籍（教育相談幼児児童生徒を含む）の有無
- ・盲ろう幼児児童生徒の教育に際して、学校経営上の課題

調査票 2：盲ろう幼児児童生徒が在籍している学校のみ回答

- ・盲ろう幼児児童生徒数
- ・視覚障害及び聴覚障害等の状態※
- ・コミュニケーション方法（受信、発信）
- ・教員の研修の希望（内容、形式）
- ・盲ろう幼児児童生徒の担当者が感じている困難性、課題 等

※ 調査の対象となる盲ろう幼児児童生徒の視覚障害及び聴覚障害の状態については、特別支援学校の対象となる「学校教育法施行令 22 条の 3」を基準とし、視覚障害及び聴覚障害の他に、知的障害、肢体不自由、病弱など他の障害を併せ有する幼児児童生徒も対象とした。

## 2 調査結果の概要

### 1. 調査票回収数・回収率

調査票発送数 1,025  
調査票回収数 828  
回収率 80.8%

### 2. 盲ろう幼児児童生徒の在籍校について

#### (1) 在籍している特別支援学校

在籍している : 166校  
在籍していない : 662校

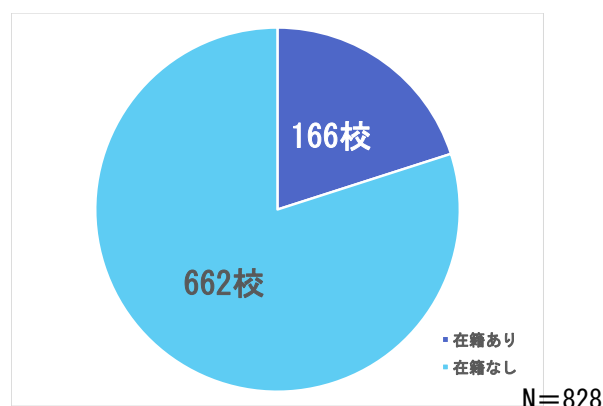


図1 盲ろう幼児児童生徒の在籍の有無

#### (2) 在籍している特別支援学校の対象とする障害種と在籍者数

※ ( ) 内は在籍幼児児童生徒数

視覚障害 : 28校 (54人)  
聴覚障害 : 20校 (33人)  
知的障害 : 27校 (39人)  
肢体不自由 : 26校 (54人)  
病弱 : 5校 (11人)  
視覚障害・知的障害 : 1校 (1人)  
視覚障害・病弱 : 1校 (1人)  
聴覚障害・知的障害 : 3校 (8人)  
知的障害・肢体不自由 : 26校 (56人)  
知的障害・病弱 : 2校 (3人)  
肢体不自由・病弱 : 4校 (6人)  
聴覚障害・知的障害・肢体不自由 : 1校 (1人)  
知的障害・肢体不自由・病弱 : 3校 (3人)  
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由 : 4校 (8人)  
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱 : 10校 (28人)  
無回答 : 5校 (9人)

### 3. 在籍する盲ろう幼児児童生徒について

#### (1) 盲ろう幼児児童生徒在籍者数

合計 315人  
(男 : 170人 女 : 142人 無回答 : 3人)

(2) 在籍幼児児童生徒の内訳

【幼稚部： 7人】

幼稚部 3歳児： 3人  
幼稚部 4歳児： 3人  
幼稚部 5歳児： 1人

【小学部： 141人】

小学部 1年生： 31人  
小学部 2年生： 35人  
小学部 3年生： 18人  
小学部 4年生： 19人  
小学部 5年生： 15人  
小学部 6年生： 22人  
学年不明 1人

【中学部： 78人】

中学部 1年生： 22人  
中学部 2年生： 28人  
中学部 3年生： 27人  
学年不明 1人

【高等部： 48人】

高等部 1年生： 17人  
高等部 2年生： 9人  
高等部 3年生： 22人

【高等部専攻科： 10人】

高等部専攻科 1年生： 5人  
高等部専攻科 2年生： 3人  
高等部専攻科 3年生： 2人

【教育相談： 31人】

幼児： 24人  
小学生： 5人  
中学生： 0人  
高校生： 2人

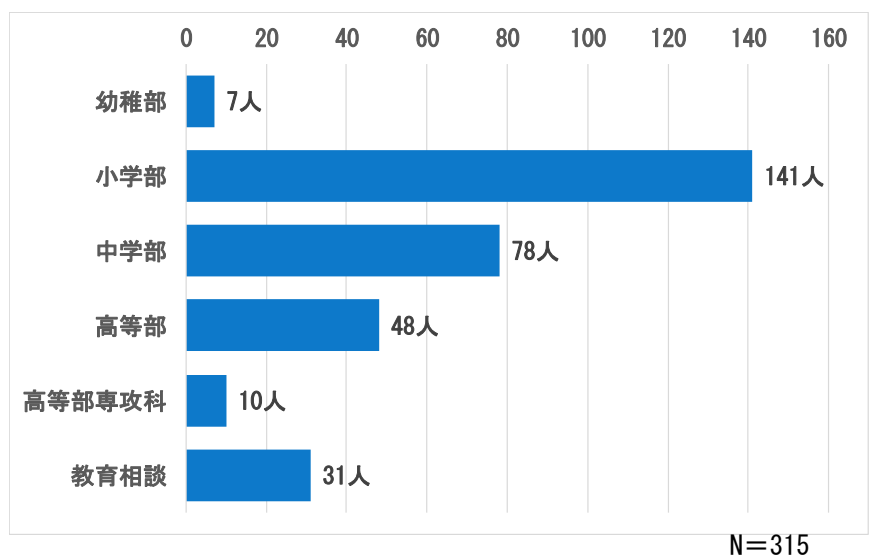


図2 在籍幼児児童生徒の内訳

以下、4. ～15. の項目については、在籍する盲ろう幼児児童生徒（教育相談を含む）315人について担当教員等の回答をまとめたものである。

#### 4. 視覚障害について

##### (1) 視覚障害の状態について

測定視力及び日常の見え方の様子から、全盲、弱視の判断をした。

全盲： 87人

弱視： 185人

不明・測定不能： 34人

無回答： 9人

なお、日常の見え方の様子については、以下の定義とした。

全盲：光も感じない

明るい光は見える

弱視：目の前で手を動かせばわかる

目の前の指の本数が数えられる

大きな文字を読める

小さな文字を読める

##### (2) 視覚障害の原因

未熟児： 39人

CHARGE 症候群： 37人

中枢性障害（皮質盲等）： 7人

ダウン症候群： 5人

アッシュャー症候群： 4人

サイトメガロウイルス感染症： 4人

先天性風疹症候群： 3人

事故： 3人

髄膜炎： 2人

その他： 93人

（網膜色素変性症、緑内障、自傷、小眼球、脳性マヒ、コケイン症候群、先天性疾患 等）

不明： 98人

##### (3) 普段使用している補装具等（複数回答可）

眼鏡： 83人

遮光眼鏡： 14人

単眼鏡： 13人

拡大レンズ： 11人

拡大読書器： 8人

その他： 22人（タブレット端末 等）

なし： 183人

## 5. 聴覚障害について

### （1）聴覚障害の状態について

測定聴力及び日常の聞こえ方の様子から、ろう、難聴の判断をした。

ろう： 28人

難聴： 237人

不明・測定不能： 41人

無回答： 9人

なお、日常の聞こえ方の様子については、以下の定義とした。

ろう：話し声を全く聞き取れない

難聴：耳元で大声なら聞き取れる

少し離れても大声なら聞き取れる

少し離れても普通の話し声を聞き取れる

### （2）聴覚障害の原因

CHARGE 症候群： 37人

未熟児： 27人

サイトメガロウイルス感染症： 5人

ダウン症候群： 5人

中枢性障害（皮質盲等）： 4人

先天性風疹症候群： 3人

アッシュャー症候群： 3人

事故： 3人

その他： 45人

（脳性マヒ、4P-症候群、コケイン症候群、コルネリア・デ・ランゲ症候群、ティサックス病 等）

不明： 151人

### （3）普段使用している補装具等（複数回答可）

補聴器： 162人

人工内耳： 17人

FM補聴システム： 8人

その他： 7人（デジタル補聴絵晏如システム 等）

なし： 108人

## 6. 盲ろうのタイプ（見え方と聞こえ方の組合せ）

全盲ろう： 11人  
全盲難聴： 61人  
弱視ろう： 17人  
弱視難聴： 157人  
測定不能・不明： 61人  
無回答： 8人

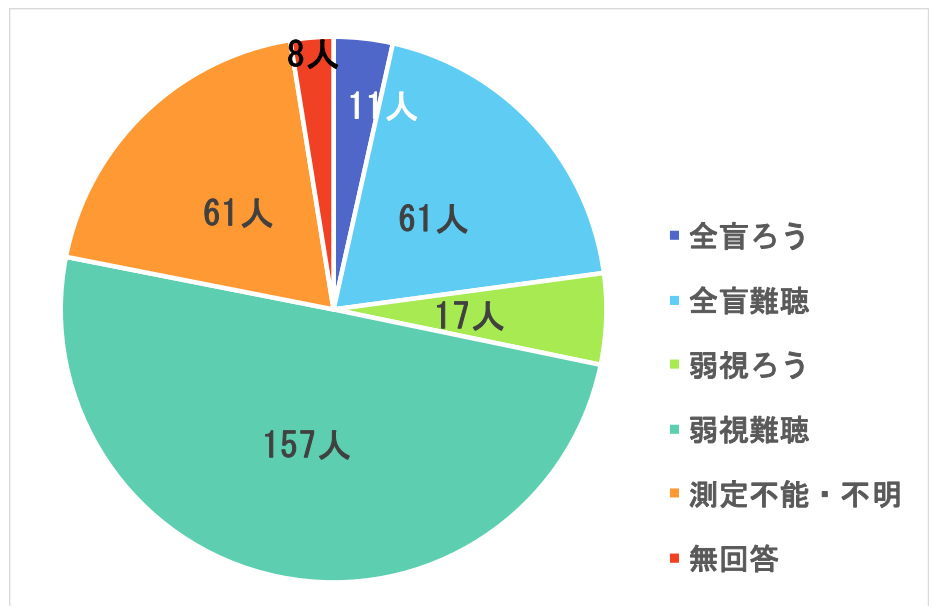


図3 盲ろうのタイプ

## 7. 視覚と聴覚以外の障害の有無

視覚と聴覚以外の障害がある： 271人（86.0%）

### 【内訳】

知的障害・肢体不自由： 117人  
知的障害： 56人  
知的障害・肢体不自由・病弱： 40人  
肢体不自由： 32人  
知的障害・肢体不自由・その他： 6人  
知的障害・その他： 5人  
知的障害・肢体不自由・病弱・その他： 2人  
知的障害・病弱： 2人  
肢体不自由・病弱： 1人  
病弱： 1人  
肢体不自由・その他： 1人  
その他： 8人  
\*「その他」については、呼吸器機能障害、発達障害等の記載

視覚と聴覚以外の障害はない： 44人（14.0%）

## 8. 医療的ケアについて

### (1) 医療的ケアの必要性について

医療的ケアが必要である： 136 人

医療的ケアは必要ない： 171 人

無回答： 8 人

### (2) 医療的ケアの内容（複数回答）

経管栄養： 95 人

口腔・鼻腔内吸引： 67 人

気管切開部の管理： 25 人

人工呼吸器： 16 人

酸素療法： 6 人

導尿： 4 人

その他： 43 人

## 9. 対象となる幼児児童生徒の指導体制

個別と集団の両方： 184 人

集団： 62 人

個別： 57 人

無回答： 12 人

10. 対象の幼児児童生徒のおもなコミュニケーション方法（幼児児童生徒の発信方法） \* 複数回答可

①泣き声や表情： 194人

②実物（オブジェクトキュー）を示す： 53人

③身振り： 116人

④手話： 59人

⑤指文字： 43人

⑥点字： 5人

⑦指点字： 1人

⑧普通文字： 36人

⑨話しことば： 73人

⑩キュード・スピーチ： 3人

⑪写真や絵： 42人

⑫その他： 50人

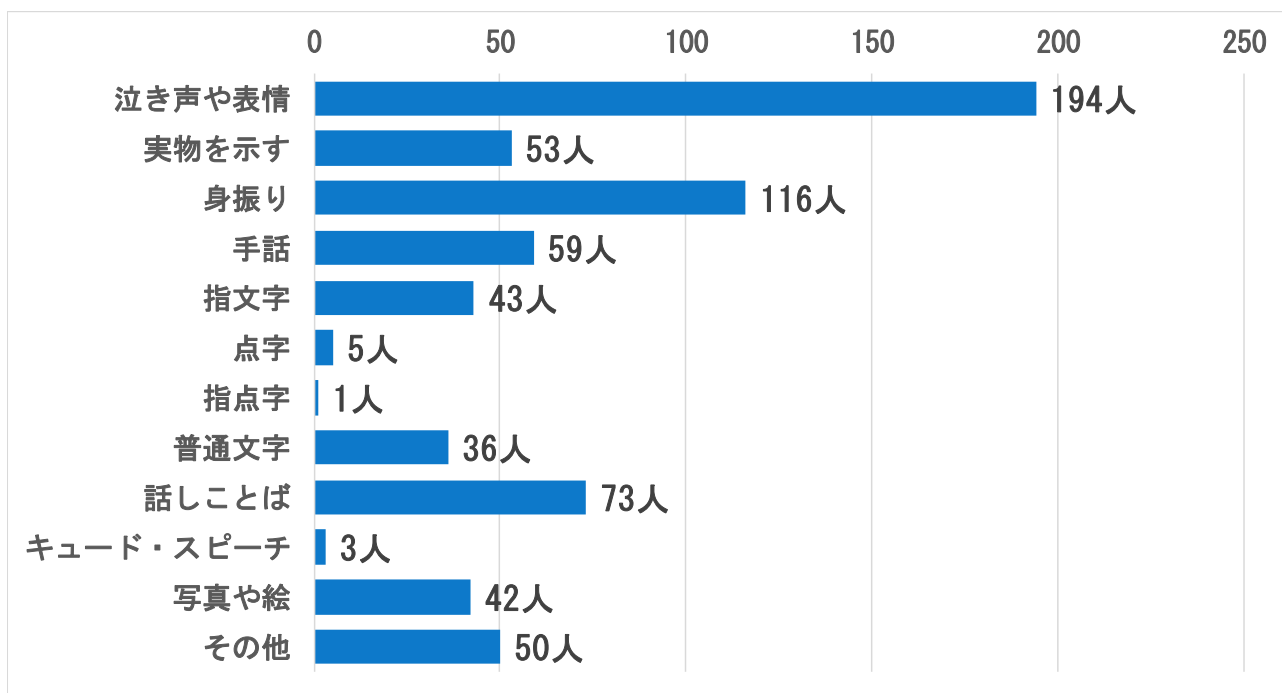


図4 幼児児童生徒のおもなコミュニケーション方法



11. 担当する教員の主なコミュニケーション方法（幼児児童生徒の受信方法） \* 複数回答可

- ①直接、身体に触ってガイドする： 218人
- ②実物（オブジェクトキュー）を示す： 172人
- ③身振り（触っての身振りも含む）： 158人
- ④手話（触手話も含む）： 87人
- ⑤指文字（触指文字も含む）： 49人
- ⑥点字： 7人
- ⑦指点字： 2人
- ⑧普通文字、拡大文字： 46人
- ⑨口話、話しことば： 191人
- ⑩キュード・スピーチ： 5人
- ⑪写真や絵： 109人
- ⑫その他： 22人

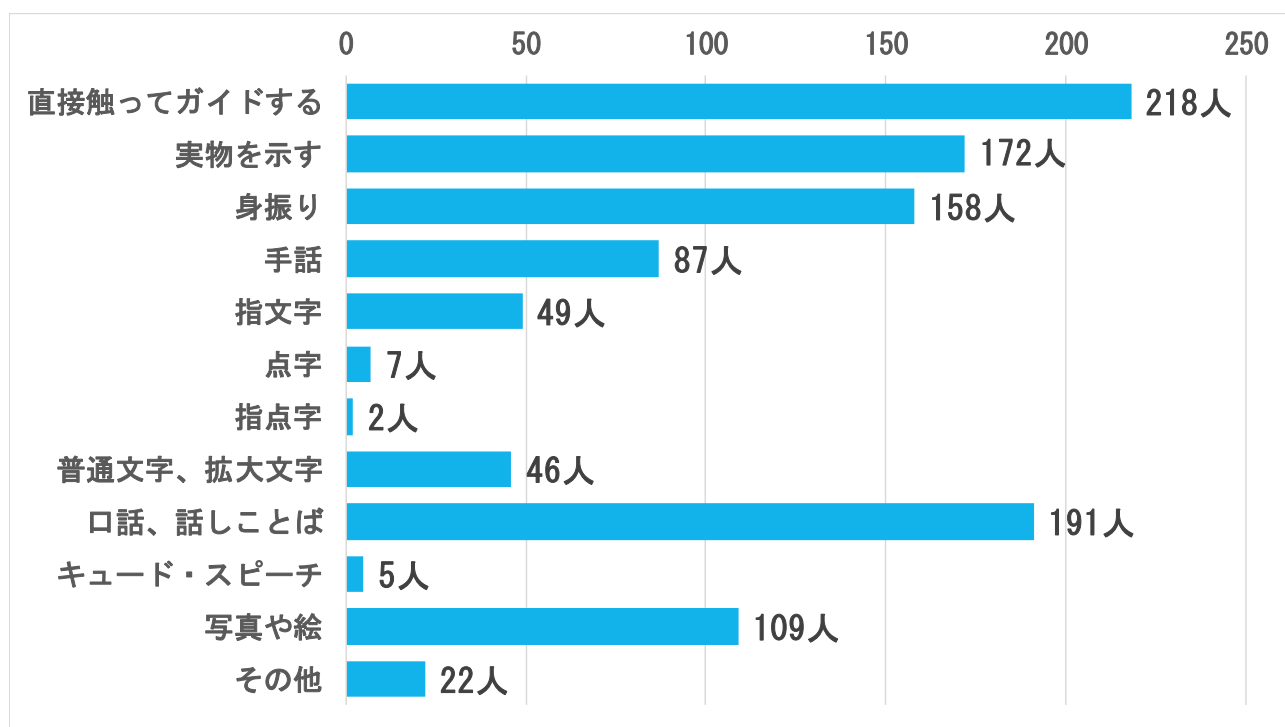


図5 教員のおもなコミュニケーション方法

## 12. 担当の教員について

基本的に一人に固定している： 41人

特定の担当者が数人いて、その教員だけに関わる： 58人

特定の担当者はいるがそれ以外の教員も関わる（教科等によって）： 191人

その他： 16人

無回答： 9人

## 13. 盲ろう教育に関する研修について

### （1）研修の必要性について

必要性を感じている： 278人

必要性を感じていない： 30人

無回答： 7人

### （2）希望する研修の方法について（研修の必要性を感じている場合に回答） \*複数回答可

①国立特別支援教育総合研究所における研修など、全国レベルでの研修： 172人

②教育センターでの研修など、都道府県レベルでの研修： 148人

③在籍校等に講師が出向いての研修： 205人

④インターネットを利用した講義配信： 47人

⑤その他： 9人

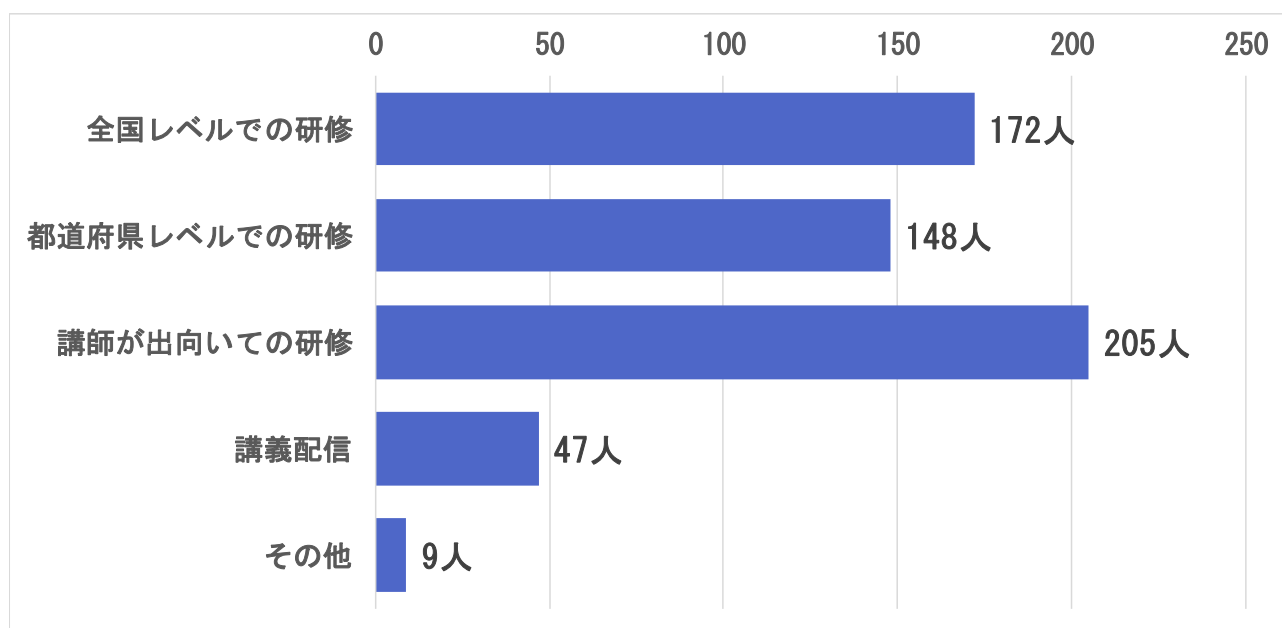


図6 希望する研修の方法について

(3) 希望する研修の内容について（研修の必要性を感じている場合に回答） \* 複数回答可

- ① 専門家などの講義： 145 人
- ② 対象の幼児児童生徒への関りや課題を一緒に検討する実践型研修： 208 人
- ③ 盲ろうの幼児児童生徒の教育を実践している学校や施設の見学： 152 人
- ④ コミュニケーション手段の研修： 178 人
- ⑤ 教材・教具・補助具の研修： 185 人
- ⑥ 盲ろう当事者の話： 58 人
- ⑦ 保護者支援の在り方： 86 人
- ⑧ その他： 6 人

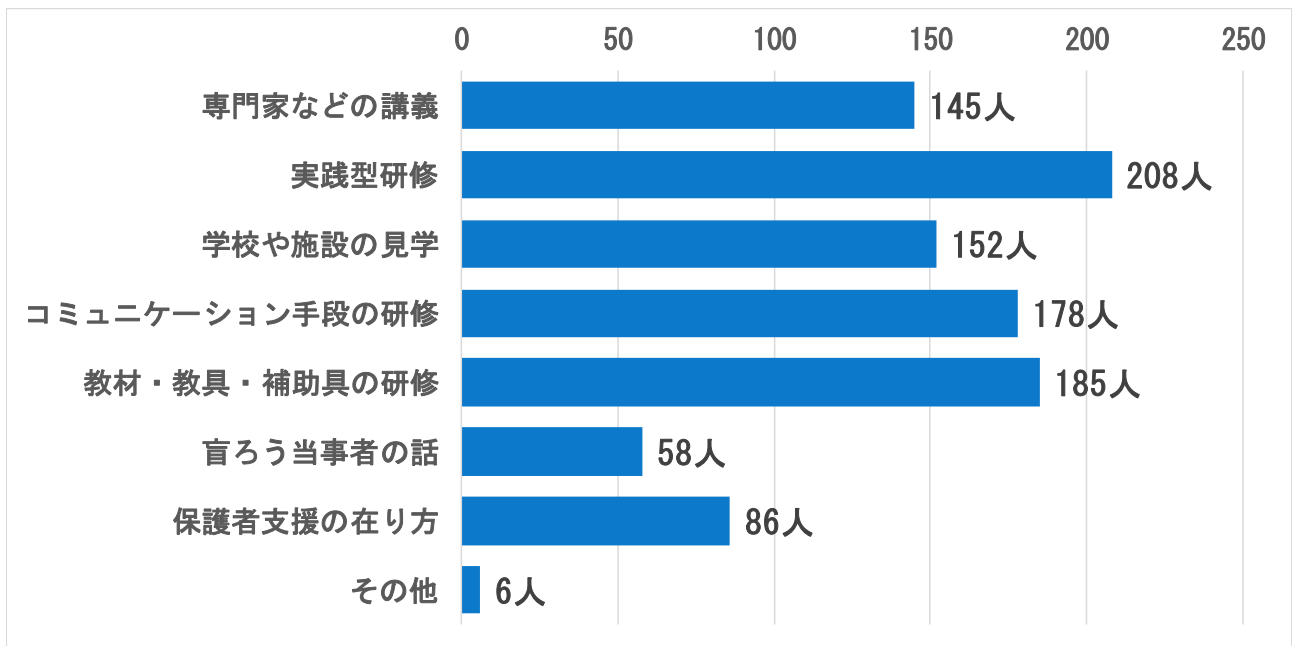


図7 希望する研修の内容について

14. 対象の盲ろう幼児児童生徒の教育等について連絡をとった機関 \* 複数回答可

- 他の特別支援学校： 119 人
- 医療機関： 69 人
- 国立特別支援教育総合研究所： 19 人
- 都道府県市の教育委員会・研修センター： 7 人
- その他： 35 人
- ない： 118 人

15. 研究所発行物の活用 \*複数回答可

リーフレット「みなさまの身近に視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」のお子さんは  
いらっしゃるいませんか？」(平成29年2月発行)： 43人

盲ろう教育における教員の専門性向上のための研究(平成21年3月発行)： 13人

「盲ろう二重障害」インターネット教員研修システム構築にむけた調査・開発研究  
(平成18年3月発行)： 3人

その他： 8人

活用しているものはない： 240人

無回答： 8人

16. 担当者が感じている困難点(自由記述 回答数241)

困難点としてあげられた主な事項は以下の通りである。

- ① 視覚障害と聴覚障害の的確な状態把握
- ② 対象幼児児童生徒の発達段階の把握
- ③ 適切なコミュニケーション方法
- ④ コミュニケーション獲得に向けた具体的な働きかけ
- ⑤ 盲ろう幼児児童生徒に情報を提供する方法の難しさ
- ⑥ 指導方法の難しさ
- ⑦ 優先すべき指導内容とその選択の難しさ
- ⑧ 活用できる教材・教具の選択
- ⑨ 身近に相談・支援できる機関がないこと

以上

(文責：重複班 星 祐子)